

公共交通の存続のために！

公共交通の現状は？

令和2年度に市が支出した公共交通の運行経費は、約2億6千万円となっております。一方、公共交通の利用者数は、毎年減少傾向にあります（⑥表）。市では、昨年4月から観光特化型バス「匠バス」の運行を開始し、約1万8千人の利用があったものの、市運行バス・路線バス・タクシー全体の延べ利用者数は、新型コロナウイルスの影響により、昨年比48万4千人減の86万4千人となりました。

利用が減るとどうなるの？

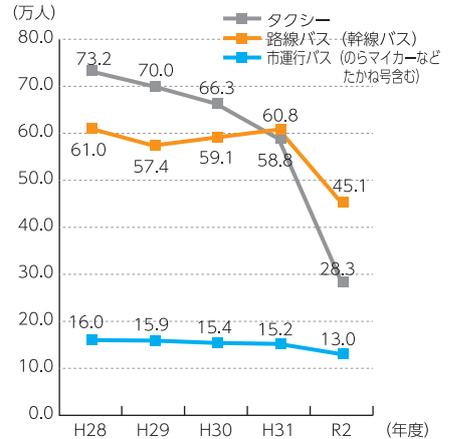
利用者が減少すると、公共交通を担う市や事業者の負担が増えます。生活に必要な路線を維持する必要がありますが、場合によっては、運行本数や路線の縮小をしなければならぬ可能性があります。



そうになると…
買い物でうしろよう…
通学でうしろよう…
病院でうしろやうって…



公共交通の利用状況



皆さんのご協力が必要です

近年、高齢者による自動車事故が増えています。また、運転免許を自主返納する高齢ドライバーが増えています。高齢化などにより、自家用車の運転ができなくなり、公共交通での移動に頼ることになるかもしれません。そのときに、公共交通のサービスが低下していたら、買い物や通院などで困ることになります。

公共交通の存続のためには、交通事業者や行政の努力だけでは維持できません。皆さんと交通事業者、行政が協力しながら取り組む必要があります。

市では、お得な乗車券の発行などを行っています。休日に家族で利用したり、週に一日は通勤利用したりするなど、公共交通を利用する機会をぜひ設けてみてください。



現場の声 Real Voice



公共交通活性化協議会の委員である、濃飛乗合自動車株式会社と岐阜県タクシー協会飛騨支部の方々から公共交通に関してお聞きしました。

観光客だけでなく地元の利用者也激減



岐阜県タクシー協会飛騨支部 支部長 佐古 徹 さん

観光客がコロナ禍により激減し、地元の方の総会や宴会などの需要も無くなり、利用者はコロナ前と比較し最大80%の減少となりました。最近では50～60%程度まで戻りましたが、厳しい状況です。このような状況ですが、タクシーも公共交通であり、何かあった時に24時間利用できることが大切だと考えています。今は深夜のお客さんはほぼゼロですが、いつでもご利用いただけるよう公共交通としての使命感を持って業務を行っています。

今後はコロナワクチンの接種率も上がり、みなさんが安心して外出できる環境になることを望んでいます。タクシー協会としては、市からの補助も活用しながらタクシーを使ったお得で楽しめる企画を提案していきますので、ぜひご利用ください。

この状態が続くと路線の維持が難しい

コロナ禍により観光客が激減し、高速バスなどの観光路線はコロナ前と比較すると最大で90%の減少となり、厳しい状況が続いています。一方、通学や通勤、通院などご利用いただいている路線バス（市運行バス含む）の利用者は減少幅が少なく、市民の移動手段としてバスが必要不可欠であることを実感しました。しかし、高速バスや観光路線の収益が路線バスの採算を支えているため、この状態が続くと今の路線を維持することは難しくなります。

バスは密室なイメージを持たれるかもしれませんが、車内の空気が5分に1度入れ替わる換気システムを備え、コロナ対策も徹底しています。バスに乗っておでかけしたくなる楽しい企画も考えていますので、ぜひバスをご利用ください。



濃飛乗合自動車(株)

- ⑥ 取締役営業本部長 坂上博幸 さん
- ⑦ 企画管理課長 有路秀彦 さん